慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	わが国における参照価格制度導入のミクロ的影響に関する研究–ドイツの事例研究を通じて–
Sub Title	
Author	鈴木雅人(Suzuki, Masahito) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1349号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1349

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1349

学生氏名　鈴木　雅人
(エーザイ株式会社)

主査 中村　洋
副査 田中　滋
大林　厚臣

所属　中村　洋　研究室

わが国における参照価格制度導入のミクロ的影響に関する研究
—ドイツの事例研究を通じて—

高齢化の進展と経済の低成長による医療費負担の増大から、わが国では医療保険制度改革の1つの焦点として薬価基準制度が取り上げられている。確かに現行制度は薬価差の発生などの問題を露呈しており見直しの余地は大きい。ただし医療用医薬品は医療において重要な役割を果たすものであり、制度改革の影響は医薬品の研究開発や価格、処方など多方面に及ぶ。したがって改革に際しては、その多面的影響を慎重に分析、検討することが必要であるが、わが国に導入すべき代替制度に関する研究は極めて不足している。

以上のような問題意識の下、本研究では代替候補の1つとして導入が検討されている参照価格制度を取り上げ、わが国に当制度を導入した場合の影響について考察した。この際、すでに自由価格制度から参照価格制度への移行を経験しているドイツを事例として取り上げ、制度の影響を個別医薬品の価格や処方量のデータに基づいて考察している。分析の主要な視点は医師の処方と製薬企業の価格設定、研究開発への影響といったミクロ面であり、国民医療費や薬剤費の削減というマクロ面は敢えて念頭に置いていない。これは、医療制度改革の最終的な目的は医療費削減ではなく、公平かつ効率的な医療を実現することにあるとの考えに立脚しているためである。

研究の結果、わが国において参照価格制度は薬価差の消滅を通じて医療用医薬品の処方適正化を促進する効果を有する反面、製薬企業による価格競争を促進する効果は疑わしいとの結論に達した。後者の原因としては、参照価格の設定による製薬企業の共謀の容易化や、成分の異なる医薬品をグルーピングした場合の差別化縮小による医薬品の値上げなどが考えられた。さらに、研究開発志向型の製薬企業に対して画期的新薬を制度の対象から外したとしても、改良型新薬に比べその研究開発を促進する効果は必ずしも期待できないとの結論を得た。